

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着のための、反復・習熟に取り組む時間の設定が図れた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。「ドリルパーク」等の、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていきたい。 また、算数の「数と計算」「図形」の領域に大きな課題がみられたため、「数と計算」「図形」の基礎的・基本的な知識・技能の定着への取組を全学年で重点的に取り組み、R8年度の全国学力・学習状況調査等で引き続き改善状況を検証していきたい。
思考・判断・表現	学習過程を見直し、活動の中に自らの学びを振り返る時間を位置付け、学びを自己調整できるように計画していく。 根拠となる資料を選び、必要な部分を見つけたり、自分の意見を書いたりすることに課題がみられたため、教科横断的な視点として、グラフ等の資料を用いる際、「誰が」「どのような視点で」「どのような単位で」などを意図的に問うようにしていく。 各教科の授業で、根拠資料を基に、自分の考え・意見をまとめる活動を重視していきたい。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」 算数「数と計算」「図形」 <指導上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題がある。反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ 「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。【単元の最初や最後に実施】 ⇒ 宿題等でも「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、家庭学習の充実に取り組む。【週に2～3回程度の実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」 算数「数と計算」「図形」 <指導上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題がある。反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。 自らの学びを自己調整していく力が弱い。児童が学びを振り返る時間を確実に確保できていない。	⇒ 授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする。【毎単元設定】 ⇒ 振り返りをふまえ、授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定する。【毎授業実施】

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能	B		単元の最初や最後に、「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことが習慣化し、テストの結果に伸びが見られた教科もあった。また、宿題等でも「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、家庭学習の充実に取り組むことができた。 R7年度さいたま市学習状況調査「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」の質問項目において、肯定的な回答結果が多かった学年でさいたま市の平均を超えており、取り組んだ成果が表れている。
思考・判断・表現	B		単元ごとに必ず児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、自らの学びをメタ認知することができた。振り返りをふまえ、授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決する場を設定したりすることもできた。 R7年度さいたま市学習状況調査「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の質問項目において、肯定的な回答結果がさいたま市の平均を超えており、取り組んだ成果が表れている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の問題に課題が見られた。また、問題形式が選択式ではなく短答式・記述式の問題でもより正答率が低い傾向にある。算数では、すべての領域、観点、問題形式で課題が見られた。四則演算等、基礎基本定着が不十分だと考えられる。理科では、知識・技能の平均正答率において、全国平均を上回り、成果があった。 R7全国学力・学習状況調査の児童質問「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」に対する肯定的な回答の割合が大きい。児童の意識と知識・技能の結果に差が見られるので、今後も児童主体の個別最適な学びを進め結果に繋がられるよう、教職員の研修を積んでいく。
思考・判断・表現	国語では、書くことの記述式の問題に課題が見られた。正答率が低いことに加え、無回答率も全国平均・県平均より高い傾向にある。算数では、すべての領域、観点、問題形式で課題が見られた。特に図形の面積の求め方を書く問題では、大きく全国平均から離れている。昨年度の全国学力・学習状況調査においても、思考・判断・表現全体の正答率が低いことから、学校全体の課題といえる。理科では、問題によっては全国平均を上回る問題もあるが、全体としては全国平均を下回っている。根拠を予想して解答する問題に課題が見られた。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	全学年・全教科で課題が見られた。どの学年も特に算数に課題が見られ、基礎的・基本的な計算(簡単な乗法や小数の計算等)が身に付いていない児童が多い。繰り返し問題を解く時間を多く設けたり、家庭学習で繰り返し取り組んでもらう必要があると考える。
思考・判断・表現	全学年・全教科で課題が見られた。どの学年も複数の資料から答えを導き出す問題に課題が見られる。必要な資料を選択し、必要な情報を得ることが難しい児童がいると考えられる。日頃からの教科でも資料から必要な情報を読み取る力を付けていく必要を感じる。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	単元の最後や宿題等でも「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、復習や家庭学習に取り組む一連の流れを形成できた。	変更なし
思考・判断・表現	B	毎単元の終わりには必ず振り返りの時間を設定し、実施することができた。児童がより主体的に課題を設定・解決できるようにしていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)